

# 第 53 回インナーゼミナール大会

## 研究計画書

|        |  |      |         |
|--------|--|------|---------|
| ゼミ名    | 石田ゼミ   | チーム名 | AIshida |
| タイトル   | 銀行業務への AI の影響  |      |         |
| テーマ群   | b) 財政・金融 g) その他  |      |         |
| メンバー   | 高橋海斗、櫻井駿、拜原幸尚、西田拓馬、藤原壮大、小栗智弥、下家快斗、吉田颯太郎  |      |         |
| 研究計画内容 | <p><b>【研究背景】</b></p> <p>1950 年代後半から 60 年代にかけ第 1 次 AI ブームが登場し、2006 年にトロント大学のジェフリー・ヒントン博士らが「ディープラーニング」を提唱したことで第 3 次 AI ブームが始まったとされる。この AI の目覚ましい進化によって将来なくなる仕事があると言われてきた。今年に入って OpenAI の「GPT-3」を一般化した ChatGPT が AI の進化をより加速化させた。松尾（2023）は「AI ブームはもはや第 4 次に入った」と指摘している。昨今目覚ましい進化を続ける AI だが、実際に労働市場にどのような影響を与えているのか？本研究では、金融市場（特に銀行）に特定し導入した AI によって労働時間や人件費、経常収益等にどのように影響するか、AI 導入の役割と効果を分析する。</p> <p><b>【研究内容】</b></p> <p>財務省(2023)によると 2023 年 10 月 1 日現在、預金取扱機関の数を 923 となっている。本研究では一般社団法人全国銀行協会が年 2 回公表している統計資料の全国財務諸表分析にまとめられている 110 の銀行（2023 年 3 月末時点）について各銀行で導入された AI と経常収益等のデータを抽出する。さらに都市銀行をはじめとする大規模な銀行で導入されたものによる、業務効率化といった効果と経常収益等の変動を定量化する。その AI が地方銀行などの小規模な銀行で導入されたと仮定したとき、その銀行ではどのような影響が出るか。既導入の銀行の結果から未導入の銀行に現れる影響と効果をシナリオ 1 として分析する。</p> <p>次いで、導入されるまでその業務を担っていた人員や AI 代替で削減された人件費等はその後どのように利用されるか？例えば新たな事業を立ち上がると仮定する。これをシナリオ 2 として、AI 導入後に新たに生み出される利益があるとしたときの経常収益等も AI 導入の効果として評価・分析する。</p> <p><b>【期待される成果】</b></p> <p>AI と一口に言ってもその種類は多岐にわたり、まだ導入が進んでないケースもある。都市銀行では導入されているが地方銀行では進んでいない事例がある。本研究で、未導入の銀行が既導入の銀行の成果から学び、導入のための判断材料を提供でき、より効果的な AI の特定及び導入を提案できる可能性がある。</p> <p><b>【参考文献】</b></p> <p>関口和一「第 4 次 AI ブーム呼ぶ ChatGPT 2023 年 6-7 月号」（一般社団法人日本経済研究所、<a href="#">第 4 次 AI ブーム呼ぶ ChatGPT   一般財団法人 日本経済研究所 (jeri.or.jp)</a>、2023 年 10 月 17 日)</p> <p>財務省「全ての取扱金融機関一覧」（財務省、<a href="#">全ての取扱金融機関一覧：財務省 (mof.go.jp)</a>、2023 年 10 月 17 日)</p> |      |         |